

# Prevalence of Chronic Pain, Especially Headache, and Relationship with Health-Related Quality of Life in Middle-Aged Japanese residents

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2017-10-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/46471">http://hdl.handle.net/2297/46471</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



## 論文内容の要旨及び審査結果の要旨

受付番号 医博甲第 2563 号 氏名 三苦 純子

論文審査担当者 主査 土屋 弘行

副査 尾崎 紀之

西條 清史

### 学位請求論文

題 名 Prevalence of Chronic Pain, Especially Headache, and Relationship with Health-Related Quality of Life in Middle-Aged Japanese residents

掲載雑誌名 Health 第 8 巻第 1 号 116 頁～124 頁

平成 28 年 1 月掲載

この研究は、日本の中老年の一般住民を対象として慢性疼痛の有病率と、慢性疼痛と健康関連 QOL (HRQoL) との関係性を明らかにすることを目的とした。

2014 年に石川県の農村部で 40～65 歳の一般住民 1291 名を対象に調査を行い、1117 名から回答を得た (回答率 86.0%)。慢性疼痛は、3 ヶ月以上続く 10 段階評価で 5 以上の痛みと定義した。HRQoL は SF-36 で評価した。

慢性疼痛の有病率は、男性 15.3%、女性 15.1%であった。部位別では、男性では有病率が高い順に頸肩部痛 6.86%、腰痛 6.69%、足部痛 3.43%、膝部痛 2.88%、上肢痛 1.98%、頭痛 0.899%であり、女性では頸肩部痛 7.16%、腰痛 5.92%、膝部痛 3.58%、足部痛 2.85%、上肢痛 1.96%、頭痛 1.43%であった。年齢と性別を共変量として、HRQoL を従属変数、慢性疼痛の有無を独立因子として共分散分析を行ったところ、慢性疼痛があると役割/社会的健康 (RCS) 以外すべての下位尺度と CS は有意に低かった。年齢と性別を共変量とし、3 つの CS を従属変数に、部位別の慢性疼痛の有無を独立因子として共分散分析を行ったところ、頸肩部、腰部、膝部、足部、その他の部位の慢性疼痛があると PCS が有意に低く、すべての部位で疼痛があると MCS が有意に低かった。RCS は頭痛のみで疼痛があると有意に低かった。3 つの CS を従属変数に、性別、年齢、それぞれの部位の疼痛の有無を独立変数として重回帰分析を行ったところ、その他の疼痛、腰部痛、年齢、膝部痛と足部痛が低い PCS と関連していた。年齢は MCS と正の関連があり、頸肩部痛、その他の疼痛、膝部痛、上肢痛と腰痛は低い MCS と関連していた。頭痛は低い RCS と関連していた。

これらのことから、RCS は PCS や MCS と慢性疼痛の有無による影響が異なっており、独立した因子と考えられる。さらに頭痛は他の部位の疼痛と HRQoL に与える影響が異なることから、他の疼痛部位とは異なる背景があると考えられた。

以上のように、本研究は慢性疼痛の有病率と慢性疼痛と HRQoL の関連を疫学的に明らかにしたものであり、中老年者の慢性疼痛への予防医学に寄与する労作と評価され、医学博士に値するものと認められた。